

【研究論文】

東北の一地方都市における母親の「育児不安」に関する研究 ー父親・祖父母に対する意識に着目してー

白旗希実子（東北公益文科大学）

1. はじめに

これまで、母親の育児への不安や負担感の増大が指摘されるとともに、特に未就学児の保護者への支援が課題とされ、父親の家事・育児参加の推進、祖父母・親族からのサポートの積極的活用や、母親が集まって子育てについての情報を共有することができる居場所づくりなど、子育て支援に関するネットワークづくりが進められてきた。

そうしたなかで、政府は、2015年3月20日に閣議決定された「少子化対策大綱」において、「男性の家事・育児の促進」、「祖父母等による支援」を施策の具体的な内容として盛り込んだ。そこでは、「男女ともに希望すれば働き続けながら子育てができる環境が必要」であり、「教育を含む子育ての経済的負担を緩和させるとともに、世代間の助け合いを図るための三世帯同居・近居の促進等多様な主体による子や孫育てに係る支援を充実させ、子育てしやすい環境を整備する」ことが目指されている¹⁾。

それでは、上記の政策が目指すような男性の家事・育児への参加や三世帯同居は、母親の育児への不安や負担感とどのように関係しているのだろうか。

2. 先行研究

「育児不安」に関しては、その内容も多様であり、明確に定義されていないのが現状である。吉田（2012）²⁾は、育児不安の研究を、①子どもの授乳や睡眠、排泄等に関する具体的な心配事として捉える立場、②育児にまつわるストレスとして捉える立場、③育児に限らず家事や生活の総体から産み出される母親の生活ストレスとして捉える立場、④母親が育児に関して感じる疲労感、育児意欲の低下、育児困難感・不安として捉える立場の4つに大別し、④の立場は、比較的母親の実態に即しているといえると述べている。この④の立場にある研究としては以下のものがある。まず、牧野（1982）³⁾は、「育児不安」を「子どもの現状や将来、或いは育児のやり方や結果に対する漠然とした恐れを含む情緒の状態また無力感や疲労感、或いは育児意欲の低下などの生理現象を伴ってある期間継続している情緒の状態、或いは態度を意味する」と定義した。また、住田（2001）⁴⁾は、「育児不安」を①「育児についての不快感情」、②「子どもの成長・発達についての不安」、③「母親自身の育児能力に関する不安」、④「育児負担感・拘束感による不安」の4つに分類している。そのほか、吉田ら（1999）⁵⁾は、「育児不安」を「育児に伴う自信のなさや不安、子どもとかわるごとの疲労感、子育てからの逃避願望、育児による社会からの孤立感」として捉えている。本研究では、「育児不安」を吉田の分類による④の立場として捉える。

さて、現代の育児は、重層化した種々の育児ネットワークに支えられている。そのなかでも、配偶者（パートナー）や親からのサポートは、「育児不安」を緩和させるものとして、重要な役割を果たしているとされる。例えば、父親が子育てに責任を感じていると母親が思っている場合（牧野 1982）⁶、父親の育児への分担意識を母親が好意的に受け止めている場合（牧野・中西 1985）⁷、夫婦のコミュニケーション頻度が多い場合（住田・中田 1999）⁸、三世帯世帯の場合（松田 2008）⁹に母親の育児不安は低くなると指摘される。また、丸山（2013）¹⁰によると、「父親は、情緒的援助の提供者として最も重要な役割を果たしており、親（とりわけ母方の親）は、子どもの世話を頼むなどの負担の大きい直接的援助を担う傾向にある」とされ、父親、祖父母の役割が注目されている。

ところで、先の松田（2008）の研究は、「同居の祖父母がいる」と回答した者が回答者の2割を満たない地域で調査が実施されている¹¹。それでは、三世帯世帯の方が母親の育児不安が低くなるという松田（2008）の調査結果は、三世帯世帯の多い地域でも同様にいえるのだろうか。本研究の対象であるA市は、三世帯世帯の多い地方都市であり、同居祖父母からのサポートを得られやすい環境、つまり、家事や育児を父親のみではなく、祖父母とも比較的分担可能な環境にあると考えられる。

本研究の目的は、三世帯世帯が多い東北地方の地方都市A市において、未就学児の育児を主に担当する母親の「育児不安」と、父親・祖父母に対する意識との関係性について明らかにすることである。

3. 調査概要

（1）調査対象・方法について

A市内の未就学児がいる3,816世帯より1,500世帯を無作為抽出法により選択し、主に育児を担う保護者を対象に、郵送法によりアンケート調査を実施した。調査期間は2015年1月6日～23日である。A市は、2005年に3つの町との合併を経て、人口105,836人、世帯数41,938の東北地方にある都市である¹²。市内は①市街地、②旧三町地区、③農村地区、④市街地の南側地区の4つに大別することができる。

アンケート調査票は、属性、家族形態、勤務状況、暮らしむき、地域の人との関わりの状況、子育て意識、祖父母・配偶者との関係、子育て支援に関する項目、自由記述（子育てに関して困っていることなど）等で構成した。「子育て意識」（14項目）・「配偶者（パートナー）との関係」（4項目）に関する調査項目は、吉田ら（2014）¹³、ベネッセ調査（2013）¹⁴、住田（2001）¹⁵、牧野（1982）¹⁶、手島・原口（2003）¹⁷の育児不安（ストレス）尺度ないし育児負担感に関する尺度、及びネットワーク尺度を参考に設定した¹⁸。また、祖父母との関係に関する調査項目（3項目）は、田渕ら（2007）¹⁹、北村（2008）²⁰の項目を参考に設定した²¹。「子育て意識」「配偶者（パートナー）との関係」「祖父母との関係」の項目は、表3-1、3-2のとおりである。

(2) 単純集計の結果と分析方法

アンケート調査票の回収数は、559票(有効552票・無効7票)であり、有効回収率は、37.3%であった²²。全体の票をみると、回答者は、母親が359人、父親が107人、祖母が53人、祖父が32人であり、母親以外の回答者が35%を占めている(N=551)。また、回答者のうち、祖父母が同居している者は、224人(41.5%)であり(N=540)、両親の就労状況をみると、共働きが304人(70.9%)、どちらかが働いている者が124人(28.9%)、共に働いていないと者が1人(0.2%)となっている(N=429)。

【表3-1 「子育て意識」項目一覧】

時折、一人になりたいという気持ちになる	体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする
育児によって自分が成長していると感じられる	身近に、子育てのことについて相談できる人がいる
子どもがわずらわしくてイライラすることがある	他の人と比べて自分の育て方でよいのかどうか不安や焦りを感じる
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う	子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある
疲れやストレスがたまってイライラすることがある	子どもはよく育っていると思う
子どもと一緒にいると心が和む	「～してはいけない」と禁止ばかりしてしまう*
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない	子どもを虐待しているのではないかと思うことがある

*本調査での独自項目

【表3-2 「配偶者(パートナー)関係」・「祖父母との関係」項目一覧】

配偶者(パートナー)関係項目	祖父母関係項目
配偶者(パートナー)は家事に協力的である。	子育てについて、祖父母が相談相手になっている
配偶者(パートナー)は子どもの相手をよくしてくれる。	祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあつて困る
配偶者(パートナー)と子どものことについて話す時間がある	日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる
配偶者(パートナー)と一緒に子どもを育てている感じがする	

【表3-3 対象者の基本属性】

項目	人数	%	項目	人数	%		
年齢 (N=326)	20代	50	15.3	未就学児数 (N=359)	1人	202	56.3
	30代	218	66.9		2人	132	36.8
	40代	58	17.8		3人以上	25	7.0
未就学児の 1人目が日 中過ごし ている場所 (N=357)	保育所	163	45.7	祖父母同居 (N=358)	有り	119	33.2
	幼稚園	86	24.1	無し	239	66.8	
	認定こども園	13	3.6	居住地 (N=358)	市街地	261	72.9
	自宅	78	21.8		それ以外	97	27.1
	祖父母宅	7	2.0	居住形態 (N=359)	持家(一戸建て・マンション)	221	61.6
その他	10	2.8	その他		138	38.4	
仕事 (N=352)	雇用者	219	62.2	世帯年収 (N=298)	300万円未満	47	15.8
	自営業主・家族従事者	21	6		300万円～600万円未満	152	51.0
	主婦・学生・その他無職	112	31.9		600万円以上	99	33.2
年収 (N=337)	なし	102	30.3	暮らしむき (N=354)	苦しい	167	47.2
	300万円未満	160	47.5		普通	160	45.2
	300万円～600万円未満	73	21.7		ゆとりがある	27	7.6
	600万円以上	2	0.6				

※「%」は有効パーセント

本研究では、主に育児を担う母親の「子育て意識」(育児不安・育児負担感に関する尺度項目)と配偶者(パートナー)(以下、配偶者)及び祖父母への認識との関係を明らかにするため、母親票を選択し分析を実施した。母親の回答者の特徴は、表3-3のとおりである。なお、データは統計解析ソフトであるSPSS(ver17)に読み込み、単純集計、Pearsonのカイ2乗検定を実施した。有意水準は5%を採用しており、クロス集計表の項目名には、カイ2乗検定結果を付した(***p<.001、**p<.010、*p<.050以下同様)²³。

4. 配偶者との関係からみる「育児不安」

配偶者関連項目の結果をみると、「家事に協力的である」を除く項目は、肯定的な回答が8割以上である一方で、「家事に協力的である」の項目は、否定的な回答の割合が他項目と比較すると多くなっている(表4-1)。

【表4-1 配偶者関連項目の回答結果】

	とても 思う	まあ 思う	あまり 思わない	まったく 思わない	N
家事に協力的である	35.0	34.1	22.5	8.4	359
子どもの相手をしてくれる	38.9	46.8	12.4	1.9	314
子どものことについて話す時間がある	35.4	46.5	15.8	2.2	316
一緒に子どもを育てている感じがする	38.3	43.1	15.7	2.9	313

※単位：パーセント (N列除く)

【表4-2 「子育て意識」と「配偶者関連項目」】

	家事に協力的である	
	そう思う (N=214)	そう思わない (N=96)
疲れやストレスがたまっていらいらすることがある***	79.0	60.4
	子どもの相手をよくしてくれる	
	そう思う (N=369)	そう思わない (N=45)
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	25.7	46.7
	子どものことについて話す時間がある	
	そう思う (N=259)	そう思わない (N=57)
育児によって自分が成長していると感じられる*	80.3	66.7
子どもがわずらわしくてイライラすることがある*	36.5	52.6
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	25.5	42.1
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない*	7.7	17.5
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる**	91.9	78.9
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある**	11.3	24.6
	一緒に子どもを育てている感じがする	
	そう思う (N=255)	そう思わない (N=58)
育児によって自分が成長していると感じられる*	80.0	66.5
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	25.1	44.8
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない*	7.8	17.2
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる*	90.9	81.0
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある*	12.3	22.4

※単位：パーセント、「行」：「そう思う」のみ表示

次に、配偶者関連項目(母親全体票)と「子育て意識」について分析をおこなった結果(表4-2)24、母親が、「家事に協力的である」と感じていても、疲れやストレスが溜まっている傾向がみられた。単純集計をみても「疲れやストレスがたまっていらいらすることがある」に「そう思う」が266人(74.1%)、「そう思わない」が92人(25.6%)となっており、多くの母親が疲れやストレスを感じている。

続いて、「子どもの相手をよくしてくれる」に「そう思わない」と回答した母親は、「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」傾向がみられた。

また、「子どものことについて話す時間がある」母親は、「育児によって自分が成長していると感じられる」「身近に、子育てのことについて相談できる人がいる」とする一方で、「そう思わない」母親は、「子どもがわずらわしくてイライラすることがある」「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」「だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない」「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」傾向がみられた。

【表4-3 属性別における「子育て意識」と「配偶者関連項目」】

(雇用者・自営業主・家族従業者)

	家事に協力的である	
	そう思う (N=148)	そう思わない (N=61)
育児によって自分が成長していると感じられる*	82.4	67.2
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う***	20.9	42.6
疲れやストレスがたまってイライラすることがある**	81.6	62.3
子どもの相手をよくしてくれる		
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	23.9	44.1
子どものことについて話す時間がある		
育児によって自分が成長していると感じられる*	81.4	67.4
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	22.8	41.9
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある*	9.7	23.3
一緒に子どもを育てている感じがする		
時折、一人になりたいという気持ちになる*	65.7	82.5
育児によって自分が成長していると感じられる**	81.7	62.5
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う***	22.5	47.5
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない***	4.7	20.0
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある*	10.8	22.5

(未就学児2人以上)

	家事に協力的である	
	そう思う (N=144)	そう思わない (N=63)
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	22.9	38.1
疲れやストレスがたまってイライラすることがある**	81.9	63.5
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない**	5.6	17.5
子どもの相手をよくしてくれる		
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	24.0	45.2
子どものことについて話す時間がある		
育児によって自分が成長していると感じられる*	80.5	64.1
子どもがわずらわしくてイライラすることがある*	40.8	61.5
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある**	13.3	30.8
一緒に子どもを育てている感じがする		
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	22.8	45.2

(未就学児の1人目が日中過ごしている場所：保育所)

	家事に協力的である	
	そう思う (N=93)	そう思わない (N=50)
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	22.6	44.0
疲れやストレスがたまってイライラすることがある**	84.9	66.0
子どもの相手をよくしてくれる		
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	25.4	48.0
一緒に子どもを育てている感じがする		
育児によって自分が成長していると感じられる*	80.0	59.4
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	23.6	50.0

(未就学児の1人目が日中過ごしている場所：自宅)

	家事に協力的である	
	そう思う (N=53)	そう思わない (N=17)
疲れやストレスがたまってイライラすることがある*	71.7	41.2

※単位：パーセント、「行」：「そう思う」のみ表示

最後に、「一緒に子どもを育てている感じがする」とした母親は、「育児によって自分が成長していると感じられる」「身近に、子育てのことについて相談できる人がいる」と回答する傾向がみられた一方で、「そう思わない」とした母親は、「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」「だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない」「子

どもを虐待しているのではないかと思うことがある」とする傾向にあった。

以上のことから、母親の配偶者に対しての肯定的な認識と、母親の「子育て意識」の肯定感との間に関連がみられることがわかる。

次に、母親の属性別の特徴を明らかにするために、仕事（雇用者・自営業主・家族従事者、主婦・学生・その他無職）、未就学児の子どもの数（1人、2人以上）、未就学児の1人目が日中過ごしている場所（保育園、幼稚園、自宅）ごとに票を抽出し、それぞれカイ2乗検定を実施した²⁵。その結果、有意差がみられたのは表4-3のとおりである。

配偶者関連項目において「そう思わない」とした有職者の母親は「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」傾向が全ての「配偶者関連項目」にみられた一方で、「そう思う」とした有職者の母親は「育児によって自分が成長していると感じられる」傾向が3項目でみられた。自由記述においても、「・・・仕事と家事で心にも時間にも余裕がなく、子どもと関わることも面倒臭いと思ってしまう現状。とにかく、楽しめないのが悩みかもしれません」、「仕事が忙しく、毎日疲れている。主人の仕事の終了時間も21時位なので、仕事が終わってからも1人で2人を見るのは疲れる。生活のために仕事をやめるわけにはいかない」などの意見がみられた。

また、未就学児が2人以上いる場合や、未就学児（1人目）が保育所で日中過ごしている場合、「配偶者関連項目」（3項目）で「そう思わない」とした母親が「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」傾向があった。さらに、未就学児（1人目）が自宅で日中過ごしている場合、「家事に協力的でない」と感じる母親は「疲れやストレスがたまってイライラすることがある」傾向がみられている。

5. 祖父母との関係からみる母親の「育児不安」

（1）祖父母同居者有無と「子育て意識」・「祖父母関連項目」の関係

祖父母の属性別にみる同居状況および祖父母同居者の特徴を表5-1、5-2に示した²⁶。祖父母同居者は119人で、父方祖母との同居者が75人と最も多い。祖父母同居者は、持家で市街地以外に居住している傾向がある。

【表5-1 祖父母の属性別にみる同居状況】

項目		実数	%	項目		実数	%
父方祖父	同居有	60	16.8	母方祖父	同居有	29	8.1
父方祖母	同居有	75	20.9	母方祖母	同居有	38	10.6
祖父母同居	同居有	119	33.2				

(各項目 N=368) ※同居有りのみ表示

【表5-2 祖父母同居者の特徴】

	居住形態***		居住地***	
	持家 (N=221)	その他 (N=137)	市街地 (N=260)	それ以外 (N=97)
同居有	95.8	4.2	53.8	46.2

※単位：パーセント、「行」：同居有のみ表示

「祖父母同居有無」と「子育て意識」との関係を見ると、同居者は、「体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする」に「そう思わない」傾向、「身近に、子育てのことについて

て相談できる人がいる」傾向にあった(表 5-3)。同居する祖父母の属性との関係(表 5-4)をみると、母方祖父母同居者は「疲れやストレスがたまってイライラすることがある」「体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする」に「そう思わない」傾向があった。

【表 5-3 祖父母同居有無と「子育て意識」】

	体の疲れがとれず いつも疲れている感じがする**		身近に、子育てのことについて 相談できる人がいる*	
	そう思う (N=213)	そう思わない (N=145)	そう思う (N=317)	そう思わない (N=40)
同居有	49.6	50.4	94.1	5.9

※単位：パーセント、「行」：同居有のみ表示

【表 5-4 祖父母同居の属性と「子育て意識」】

	疲れやストレスがたまって イライラすることがある*		体の疲れがとれず いつも疲れている感じがする*	
	そう思う (N=265)	そう思わない (N=92)	そう思う (N=213)	そう思わない (N=145)
母方祖父同居有	41.4	58.6	41.4	58.6
	疲れやストレスがたまって イライラすることがある**		体の疲れがとれず いつも疲れている感じがする**	
	そう思う (N=265)	そう思わない (N=92)	そう思う (N=213)	そう思わない (N=145)
母方祖母同居有	76.5	23.5	61.9	38.1

※単位：パーセント、「行」：同居有のみ表示

【表 5-5 祖父母関連項目の回答結果】

	とても そう思う	まあ そう 思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	N
子育てについて、祖父母が相談相手になっている	27.2	45.1	17.9	9.9	324
祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に 食い違いがあつて困る	11.2	30.4	51.6	6.8	322
日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる	39.0	36.4	17.2	7.5	308

※単位：パーセント (N列除く)

【表 5-6 祖父母同居有無と祖父母関連項目】

	日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる**	
	そう思う (N=231)	そう思わない (N=76)
同居有	85.6	14.4

※単位：パーセント、「行」：同居有のみ表示

次に、祖父母関連項目の回答結果(表 5-5)をみると、約7割の母親が「子育てについて祖父母が相談相手になっている」「日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる」と、情緒的サポートおよび直接的サポートを得られていると認識している。その一方で、「祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあつて困る」とした母親が約4割おり、世代間の認識の違いに困り感を抱いている母親が一定程度存在している。

また、「祖父母同居有無」と「祖父母関連項目」のカイ 2乗検定の結果、同居者が「日ごろの子どもの世話など、祖父母の協力が得られる」とする傾向がみられた(表 5-6)。

(2) 「祖父母関連項目」と「子育て意識」との関係

祖父母への認識と「子育て意識」について、統計的に有意差があると認められた項目について表 5-7 に示した。「子育てについて祖父母が相談相手になっている」母親は、「育児によって自分が成長していると感じられる」「身近に、子育てのことについて相談できる人がいる」傾向がある一方で、「そう思わない」母親は、「時折、一人になりたいという気持ちになる」「だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない」傾向というがみられた。

【表5-7 「子育て意識」と「祖父母関連項目」】

	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う(N=234)	そう思わない(N=90)
時折、一人になりたいという気持ちになる*	64.1	76.7
育児によって自分が成長していると感じられる***	85.0	60.0
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない**	6.8	16.7
	そう思う(N=233)	そう思わない(N=90)
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる***	95.7	74.4
祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る		
	そう思う(N=134)	そう思わない(N=188)
子どもがわずらわしくてイライラすることがある*	45.5	34.0
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う***	39.6	21.3
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない***	20.1	3.2
他の人と比べて自分の育て方でよいのか不安や焦りを感じる*	50.0	37.8
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる***	81.3	95.2
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある**	46.3	29.3
子どもは良く育っていると思う***	89.6	97.9
	そう思う(N=133)	そう思わない(N=188)
「～してはいけない」と禁止ばかりしてしまう*	56.4	44.7
	そう思う(N=133)	そう思わない(N=186)
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある**	20.3	9.1
日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる		
	そう思う(N=231)	そう思わない(N=76)
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる*	92.2	84.2
	そう思う(N=232)	そう思わない(N=76)
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある*	33.2	46.1

※単位：パーセント、「行」：「そう思う」のみ表示

「祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る」母親は、「子どもがわずらわしくてイライラする」「してはいけないと禁止ばかりしてしまう」などのイライラ感、「他の人と比べて自分の育て方でよいのかどうか分からなくなる」「子どもを育てていてどうしていいか分からなくなる」などの自信喪失感、「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」などの負担感、「時折、一人になりたいという気持ちになる」などの疲労感を抱く傾向がうかがわれた。その一方で、「そう思わない」母親は、「身近に子育てのことについて相談できる人がいる」「子どもは良く育っていると思う」傾向にあった。次に、「祖父母同居有」と「祖父母同居無」にわけてカイ二乗検定を実施した結果、食い違いがあって困る同居者は、「子どものために自分ばかりが我慢しているように思う」(p<.050)、「だれも自分の子育ての大変さをわかってくれない」(p<.010)、「子どもを育てていてどうしたらよいのか分からなくなる」(p<.050)、「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」(p<.050)傾向があった。同居無の場合は、8項目に有意差がみられた²⁷。こうしたことから、祖父母同居に関わらず、祖父母世代と「子育て意識」の相違があるという認識が母親に生じている場合、それが母親の「育児不安」につながる可能性が示唆されている。

最後に、「日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる」とした母親は、「身近に、子育てのことについて相談できる人がいる」傾向、「そう思わない」とした母親は「子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある」傾向がみられた。

(3) 母親の属性別における「祖父母関連項目」と「子育て意識」

次に、「祖父母関連項目」と「子育て意識」の属性別の特徴を明らかにするために、仕事(雇用者・自営業主・家族従事者、主婦・学生・その他無職)、未就学児の子どもの数(1

【表5-8 属性別の「子育て意識」と「祖父母関連項目」①】

(雇業者・自営業主・家族従業者)

	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う (N=167)	そう思わない (N=52)
育児によって自分が成長していると感じられる*	82.6	67.3
祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあつて困る		
	そう思う (N=86)	そう思わない (N=131)
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある*	18.6	8.4
	そう思う (N=86)	そう思わない (N=133)
子どもがわずらわしくてイライラすることがある*	48.8	35.3
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	39.5	20.3
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない***	17.4	2.3
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる**	84.9	96.2
子どもは良く育っていると思う**	88.4	97.7

(主婦・学生・その他無職)

	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う (N=62)	そう思わない (N=37)
育児によって自分が成長していると感じられる*	91.9	51.4
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる**	91.9	70.3
祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあつて困る		
	そう思う (N=48)	そう思わない (N=50)
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない***	25.0	4.0
体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする*	58.3	36.0
他の人と比べて自分の育て方でよいのか不安や焦りを感じる*	54.2	32.0
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある***	58.3	24.0
日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる		
	そう思う (N=43)	そう思わない (N=40)
疲れやストレスがたまつてイライラすることがある*	58.1	80.0

(未就学児1人)

	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う (N=76)	そう思わない (N=30)
育児によって自分が成長していると感じられる***	89.5	53.3
祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあつて困る		
	そう思う (N=54)	そう思わない (N=51)
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う*	41.2	22.2
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない***	23.5	1.9
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる**	74.5	94.4
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある**	49.0	24.1
日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる		
	そう思う (N=72)	そう思わない (N=28)
育児によって自分が成長していると感じられる*	86.1	64.3

(未就学児2人以上)

	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う (N=158)	そう思わない (N=60)
育児によって自分が成長していると感じられる**	82.9	63.3
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない*	6.3	15.0
祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあつて困る		
	そう思う (N=83)	そう思わない (N=134)
時折、一人になりたいという気持ちになる*	75.9	61.9
子どもがわずらわしくてイライラすることがある**	56.6	37.3
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	38.6	20.9
疲れやストレスがたまつてイライラすることがある*	84.3	70.9
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない***	18.1	3.7
身近に、子育てのことについて相談できる人がいる**	85.5	95.5
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある*	44.6	31.3
「～してはいけない」と禁止ばかりしてしまう*	66.3	49.3
	そう思う (N=83)	そう思わない (N=133)
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある**	22.9	11.3
日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる		
	そう思う (N=160)	そう思わない (N=48)
疲れやストレスがたまつてイライラすることがある*	73.1	87.5

※単位：パーセント、「行」：「そう思う」のみ表示

人、2人以上)、未就学児の1人目が日中過ごしている場所(保育園、幼稚園、自宅)ごと

に票を抽出し、カイ 2 乗検定を実施した。その結果は表 5-8、表 5-9 のとおりである。

「子育てについて祖父母が相談相手になっている」とした母親は、仕事の有無、未就学児数に関わらず、「育児によって自分が成長していると感じられる」傾向がみられる。

次に、「祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いあって困る」とした母親は、仕事の有無、未就学児数に関わらず、「だれも自分の子育ての大変さをわかってくれない」と感じる傾向にあった。また、未就学児数が 2 人以上、有職者、未就学児の 1 人目が保育所で過ごす、「祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る」とした母親は、ともに「子どもがわずらわしくてイライラする」「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」傾向がみられている。そのほか、未就学児の 1 人目が自宅・幼稚園で過ごしている母親、主婦などの、「祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る」とした母親は、ともに「子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある」傾向がみられた。なかでも無職者層は「他の人と比べて自分の育て方でよいのか不安や焦りを感じる」傾向もみられた。この項目で多くの有意差がみられたのは、未就学児が 2 人以上いる母親であった。

【表 5-9 属性別の「子育て意識」と「祖父母関連項目」②】

(未就学児の 1 人目が日中過ごしている場所：保育所)		
	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う (N=108)	そう思わない (N=42)
育児によって自分が成長していると感じられる*	82.4	64.3
	祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る	
	そう思う (N=61)	そう思わない (N=87)
子どもがわずらわしくてイライラすることがある**	59.0	34.5
子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う**	42.6	21.8
だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない**	21.3	4.6
(未就学児の 1 人目が日中過ごしている場所：幼稚園)		
	祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る	
	そう思う (N=27)	そう思わない (N=46)
「～してはいけない」と禁止ばかりしてしまう**	74.1	39.1
	日ごろ子どもの世話など、祖父母の協力が得られる	
	そう思う (N=50)	そう思わない (N=17)
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある*	30.0	58.8
(未就学児の 1 人目が日中過ごしている場所：自宅)		
	子育てについて祖父母が相談相手になっている	
	そう思う (N=47)	そう思わない (N=23)
育児によって自分が成長していると感じられる***	91.5	39.1
	祖父母世代と親世代では子育てについての考え方に食い違いがあって困る	
	そう思う (N=33)	そう思わない (N=39)
他の人と比べて自分の育て方でよいのか不安や焦りを感じる**	54.5	23.1
子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある**	51.5	17.9

※単位：パーセント、「行」：「そう思う」のみ表示

(4) 母親の属性別における祖父母同居有無と「子育て意識」

次に、母親の属性と祖父母の同居有無により「子育て意識」に違いがみられるのかどうかをみるために、母親票を仕事（雇用者・自営業主・家族従事者、主婦・学生・その他無職）、未就学児の子ども数（1 人、2 人以上）、未就学児の 1 人目が日中過ごしている場所（保育園、幼稚園、自宅）ごとに抽出し、カイ 2 乗検定を実施した（表 5-10）。

【表5-10 属性別の「子育て意識」と祖父母同居有無】

(主婦・学生・その他無職)		
	同居有 (N=27)	同居無 (N=85)
体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする**	91.9	51.4
子どもを育てていて、どうしたらよいか分からなくなることがある*	25.9	48.2
(未就学児2人以上)		
	同居有 (N=89)	同居無 (N=154)
時折、一人になりたいという気持ちになる*	61.8	74.0
疲れやストレスがたまってイライラすることがある**	67.4	83.1
体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする**	47.2	67.5
子どもを育てていて、どうしたらよいか分からなくなることがある*	29.2	42.9
(未就学児の1人目が日中過ごしている場所：保育所)		
	同居有 (N=63)	同居無 (N=100)
子どもがわずらわしくてイライラすることがある*	34.9	52.0
疲れやストレスがたまってイライラすることがある**	66.7	85.0
体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする**	52.4	74.0
子どもを育てていて、どうしたらよいか分からなくなることがある*	27.0	45.0
(未就学児の1人目が日中過ごしている場所：自宅)		
	同居有 (N=23)	同居無 (N=55)
体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする*	34.8	60.0
他の人と比べて自分の育て方でよいか不安や焦りを感じる**	17.4	45.5

※単位：パーセント、「行」：「そう思う」のみ表示

主婦などの場合、または未就学児が2人以上、未就学児の1人目が保育所あるいは自宅で日中過ごしている母親の場合、祖父母同居無しの者の方が「体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする」と回答する傾向がみられ、さらに未就学児が2人以上、未就学児の1人目が保育所で日中過ごしている祖父母同居無しの母親は「疲れやストレスがたまってイライラすることがある」傾向もみられるなど、心身の疲労感が溜まっている様子がうかがえる。また、主婦などの場合や未就学児2人以上、未就学児の1人目が保育所で日中過ごしている祖父母同居無しの母親は「子どもを育てていて、どうしたらよいか分からなくなることがある」傾向、未就学児の1人目が自宅で日中過ごしている祖父母同居無しの母親では「他の人と比べて自分の育て方でよいか不安や焦りを感じる」傾向がみられ、育児に対する自信喪失感がうかがえる。

【表5-11 自由記述の内容】

回答者	記述内容
祖父	「孫3人と同居しています。母親・父親も仕事を持つており、2人とも遅く帰ってくるので、孫三人の保育園の迎え、習い事の送迎や他の面でも毎日フル稼働です。今のところ、健康と体力に恵まれているので続けられますが、祖父母の援助なしには子育てができないのが現状だと思います」
母親	「祖父母は近くに住んでいますが、協力はしてくれるものの自分の子どもは親である自分が見るものというかたい考えのため甘えづらい感じです」
母親	「子どもにとって、祖父母の存在は大きいと感じました。用事はなくても、週に1~2回、1時間でも誰かに子どもを遊んでもらえたら、それが子どもにとっても楽しい時間であったら、親子共々いい別々のリフレッシュができると思います」
母親	「父や祖母と一緒に住んでいると協力してもらえて良いと思われがちだが、全ての家庭環境がそうではない。子育てが苦手な家族や65歳未満でも体が、気持ちが衰え、預けることができない祖母もいることを理解してほしい」
母親	「義母が保育園で働いている為、新しい情報の中楽しく育児出来ていると思います。分からないことがあれば常に聞いて解決も出来る為、特に困ったこともなく、とても恵まれた環境にいてありがたいなあと日頃感謝しているのです。子供の面倒もよく見てもらっています。夫と私だけだったら、もうすぐにせっぱつまっていたらうな。」

自由記述をみると、祖父母の協力が母親の育児への肯定感につながる記述もみられる一方で、祖父母側の負担にも配慮する必要性が示唆されている。

6. まとめ

配偶者の情緒的なサポートは、母親の育児に対するイライラ感や負担感、孤独感を抑え、子育てに対する肯定的な感情へとつながっていた。こうした傾向は、配偶者と一緒に育てている感じがすると回答した母親にもみられ、先行研究の結果とほぼ同様であった。このように、配偶者は、特に情緒的なサポートの面で重要な役割を果たしている。

配偶者の直接的な育児参加は、母親の子育てへの負担感を抑える傾向がみられる一方で、特に家事の面では、配偶者の協力があると認識しているにも関わらず、母親の疲労感が蓄積している状況が明らかとなった。母親票全体をみても、配偶者の家事への協力に対する母親の肯定的な認識は、他の項目と比較して少ない。これらのことから、配偶者の家事への協力は、認識の上では得られていると感じていても、それによって疲労感が和らぐかといえれば十分とはいえず、実際には不足している可能性が示唆されている。

なかでも有職者の母親で配偶者関連項目において否定的に回答した者は、自分ばかりが我慢していると負担を感じている様子がうかがわれた。

祖父母との関係を見ると、約7割の母親が、祖父母から直接的なサポートや情緒的なサポートを得られていると認識しており、A市では、多くの母親にとって祖父母が援助者としての役割を果たしていることがわかる。祖父母から情緒的なサポートを得られているとする母親は、疲労感や孤立感が軽減される傾向にあり、配偶者とともに、情緒的なサポートの面でも、祖父母は一つの重要な役割を果たしていることがわかる。

祖父母と同居する母親は、祖父母から子どもの世話などの直接的なサポートを得られやすく、疲労感が和らぐ傾向がみられる。祖父母同居者は、家事や子どもの世話など負担の大きい直接的なサポートを祖父母から得られていると考えられ、そのことが疲労感の軽減へとつながっていると考えられる。さらに、祖父母同居者のなかでも、母方祖父母との同居者は、ストレスやイライラ感の軽減との関係もみられおり、定位家族である実親との同居が、ストレス抑制につながる傾向にあることをうかがわせている。

以上のことから、松田(2008)と同様、三世代世帯が多いA市内においても、三世代世帯の場合、そうでない場合に比べて、母親の「育児不安」が低くなる傾向が確認された。

しかし、留意しなければならないのは、約4割の母親が、子育てに対する世代間の認識の違いに困り感を抱いており、困り感の有無は、母親の子育てに対する自信の有無、イライラ感や負担感、疲労感など、母親の「育児不安」に影響を与えるということである。祖父母同居は、特に母親の疲労感という側面で「育児不安」を軽減させるが、祖父母世代との子育て認識の食い違いに対して困り感が生じると、逆に様々な側面で「育児不安」へとつながる可能性がある。そのため、祖父母同居が一概に「育児不安」を緩和するとはいい切れない状況であることを留意しなければならない。現時点で求められることは、祖父母世代と親世代の子育てに対する考え方の食い違いを緩和させる、あるいは食い違いをお互いに理解し合えるような支援のあり方を検討していくことである。

また、同居あるいは近居であっても、祖父母の事情によっては祖父母からの育児支援を得られるかどうかかわからない状況があることが自由記述等からうかがえた。このことから、家族以外からもサポートを得られる環境づくりも更に進めていかなければならないだろう。

【注】

- 1 内閣府「少子化社会対策大綱」2015年3月20日。
- 2 吉田弘道「育児不安研究の現状と課題」『専修人間科学論集心理学篇』2(1)、2012年、1-8頁。
- 3 牧野カツ子「乳幼児をもつ母親の生活と<育児不安>」『家庭教育研究所紀要』3、財団法人小平記念会家庭教育研究所、1982年、34-56頁。
- 4 住田正樹『地域社会と教育—子どもの発達と地域社会』九州大学出版会、2001年、268-271頁。
- 5 吉田弘道・山中龍宏・太田百合子・巷野悟郎・山口規容子・中村孝・牛島廣治「育児不安尺度の作成に関する研究—1・2 か月児の母親用試作モデルの検討—」『小児保健研究』58(6)、1999年、697-704頁。
- 6 牧野、前掲論文。
- 7 牧野カツコ・中西雪夫「乳幼児を持つ母親の育児不安—父親の生活や意識と母親の育児不安との関連」『日本教育社会学会大会発表要旨収録』37、1985年、36-37頁。
- 8 住田正樹・中田周作「父親の育児態度と母親の育児不安」『九州大学大学院教育学研究紀要』2(45)、1999年、19-38頁。
- 9 松田茂樹『何が育児を支えるのか』勁草書房、2008年、94頁。
- 10 丸山美貴子「育児ネットワーク研究の展開と論点」『社会教育研究』31、2013年、11-21頁。
- 11 松田、前掲書、25頁。
- 12 A市「住民基本台帳」(2016年7月31日現在)。
- 13 吉田弘道・山中龍宏・巷野悟郎・太田百合子・山口規容子・牛島廣治「育児不安尺度の作成に関する研究—因子間相関について—」『専修人間科学論集心理学篇』4(1)、2014年、39-44頁。
- 14 ベネッセ次世代育成研究所編『第1回幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書』ベネッセコーポレーション、2013年。
- 15 住田、前掲書、268-271頁。
- 16 牧野、前掲論文。
- 17 手島聖子・原口雅浩「乳幼児健康診査を通じた育児支援」『福岡県立大学看護学部紀要』1、2003年、101-110頁。
- 18 「子育て意識」の項目は、ベネッセ調査(2013)、住田(2001)、牧野(1982)、手島・原口(2003)の育児不安(育児ストレス)・育児負担感に関する尺度を一部加筆修正して設定した。「『～してはいけない』と禁止ばかりしてしまう」の項目は、原田正文『子育ての変貌と次世代育成支援』名古屋大学出版会、2006年、205-206頁を参考に加えた本調査の独自項目である。「配偶者(パートナー)関係」項目は、吉田ら(2014)の育児不安尺度、原口・手島(2003)・原口・手島(2006)の育児ソーシャル・サポート尺度を参考に、一部修正して設定した。その際、先行研究において、「父親」・「夫」等となっていた文言を、「配偶者(パートナー)」に変更している。
- 19 田淵恵・中原純「祖父母世代における子育て支援意欲と支援への問題意識」『生老病死の行動科学』12、2007年、13-22頁。
- 20 北村安樹子「子育て世代のワーク・ライフ・バランスと“祖父母力”—祖父母による子育て支援の実態と祖父母の意識—」『Life Design Report』5-6、2008年、16-27頁。
- 21 「祖父母関係」の項目については、松田(2008)のネットワーク有無をたずねる項目、

田淵ら(2007)の子育て支援内容別の支援意欲等を参考に、父親・母親を回答者と想定して、一部加筆修正して設定した。

- 22 本調査の詳細な集計結果および他の視点からの分析は、國眼眞理子・白旗希実子・小関久恵・竹原幸太・伊藤眞知子・武田眞理子・木崎実可子「酒田市における家庭教育支援に関する調査研究」『平成27年度大学まちづくり政策形成事業(最終報告書)』2016年3月、を参照されたい。
- 23 ただし、期待値が5よりも小さいセルの数が全体の20%以上の場合は除外し、カイ2乗検定の結果とHarbermanの残差分析の結果とをあわせて解釈をおこなっている。
- 24 「子育て意識」「配偶者(パートナー)関係項目」「祖父母関係項目」の選択肢について、「とてもそう思う」「まあそう思う」を合わせて「そう思う」へ、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合わせて「そう思わない」とし、カイ2乗検定を実施した。以降のクロス集計表も同様の手続きを踏んでいる。
- 25 未就学児の子ども1人目が日中過ごす場所の項目は、「認定こども園」「祖父母宅」「その他」は母数が少なかったため分析から除外した。以降も同様の手続きを踏んでいる。
- 26 全体票では、約4割が祖父母と同居しており、育児に祖父母が関わっていることは、回答者の約15%が祖父母であることからもうかがわれる。全体票でも、表5-2と同様の特徴が同居者にみられている。
- 27 カイ二乗検定の結果は、「時折、一人になりたいという気持ちになる」($p<.050$)、「子どもがわずらわしくてイライラすることがある」($p<.050$)、「子どもを育てるために自分ばかりが我慢しているように思う」($p<.010$)、「だれも自分の子育ての大変さを分かってくれない」($p<.001$)、「身近に、子育てのことについて相談できる人がいる」($p<.001$)、「他の人と比べて自分の育て方でよいのか不安や焦りを感じる」($p<.050$)、「子どもを育てていて、どうしたらよいのか分からなくなることがある」($p<.050$)、「子どもはよく育っていると思う」($p<.050$)となっている。

[謝辞]本研究は「平成27年度大学まちづくり政策形成事業」(酒田市)による研究成果の一部である。調査に協力してくださった方、共同研究者に感謝を申し上げる。